

眉をあくれば

秋田県立雄物川高等学校
校長室だより 第3号
平成29年7月18日(火)
執筆 信田 正之

蝉時雨

7月に入って急に気温が上がりました。連日、30℃を超える猛暑が続き、中庭ではアブラゼミの合唱が日に日に激しさを増しています。たくさんのセミが一斉に鳴きたてる声を「せみしぐれ蝉時雨」と言うのだそうです。セミの声を聞くと、「いよいよ夏が来たなあ」と実感できる夏の風物詩であることは確かですが、これだけ数が多いと、むしろ煩わしく思う人が多いのではないのでしょうか。

ところで、アブラゼミが陸上で生活する時間は、せいぜい1週間程度であることを皆さん知っていますか。実は、セミの仲間は、一生の大半を幼虫として過ごします。幼虫時代は、土の中で木の根から樹液を吸い、成虫になるための力を蓄えます。アブラゼミの場合、その期間はおよそ6年間と言われています。しかし、やがて土から這い上がって成虫に羽化した途端、わずか1週間程度で寿命が尽きてしまうのです。では、何の目的で成虫になるのかというと、それは言うまでもなく「子孫を残す」こと以外にありません。あの鳴き声は異性を引き寄せる信号であり、生殖相手が見つかりと交尾して雌は木の幹に産卵し、間もなく命を終えます。ただし、鳴き声が小さなセミは生殖相手が見つからず、6年間を無駄にしてしまう場合もあります。ですから、セミにとって、あの鳴き声は人生をかけた「魂の声」と考えると、蝉時雨も何だかいじらしく聞こえてきます。

私はこのセミの一生が、部活動に似ていると感じています。長い間、苦しい練習に耐え、力を蓄えて3年生の最後の大会に臨みます。しかし、練習時間に比べると試合時間はあまりに短い。「勝利」という目標があっても、必ずしもそれが達成できるとは限りません。ではなぜ、生徒は部活動に励むのでしょうか。それは、「努力して目標を達成しようとする行為」そのものに満足感や生きがいを感じていることに他なりません。たとえ目標が達成できなくても、それまでの経過時間の中にこそ意味があると考えられるのです。さらに、セミの一生とは大きく異なる事実があります。それは「大人になってからの時間が長い」ということです。部活動で得た経験や能力は、人生を歩む上で大きな力になります。それこそが、部活動を続ける最大の理由ではないのでしょうか。

セミから見れば、皆さんの人生の長さをうらやましく感じることでしょう。しかし、それに甘えてはいけません。人生が一度しかないことは、セミと同じなのですから。3年生は進路が目の前に迫っていますから、この夏休みを利用して、しっかり自分と向き合い、明確な未来を展望してください。もちろん1、2年生も、この機会に自分の将来を真剣に考えてほしいと思います。蝉時雨を聴きながら。